

❖科目名Course Title			
思索と言語 手話という視点			
❖担当教員Instructor			
土永 孝			
❖開講学期Semester	前期	❖対象学年Year	1～
❖履修可能人数Capacity	制限なし（遠隔） 制限なし（対面）	❖単位数Number of Credits	2
❖授業形態Type of Class	講義		

❖キーワードKey Words	
手話、ろう文化、聴覚障害、難聴、ろう、中途失聴、障害学、社会モデル、人工内耳、新生児聴覚スクリーニング検査、情報保障	
❖授業の目的Course Objectives	
❖授業概要Course Description	
<p>誤解されないようにまず断っておくが、これは手話言語学の授業ではないし、手話そのものを教える授業でもない。手話という視点を通してわれわれの生きている社会を捉え直すための授業である。</p> <p>手話・ろう・難聴と聞いて、自分には関係のないことだと思ったり、ボランティアの話かと早合点する人は多いだろう。しかし、この問題圏をのぞいてみるならば、みなさんが生きているこの世界の諸問題と通底するものが見えてくるはずだ。とくに、行政・教育・医療などの各方面で仕事をしている人／しようと思っている人にとっては、実は知らないではすまされない問題、自分の専門分野の視点からだけではなかなか理解できない問題がそこにある。本授業では手話という視点を通して、聞こえない人々を取り巻く諸制度、教育、多言語社会、多文化、「障害」の個人モデルと社会モデル、生命倫理などをめぐる問題を考え、議論する。</p>	
❖到達目標Course Goals	
手話が言語であるということの意味と、手話・ろう・難聴が誤解と無知にさらされている実態を理解し、この理解を通して聴者主導の世界のさまざまな問題を考えることを目標とする。	
❖授業計画Course Schedule	
<p>授業時間中は以下の流れで授業を進める予定。</p> <p>北海道大学の教育情報システムであるELMS portalのmoodleを利用して、資料の掲載や毎回の授業アンケートの実施、授業時間外のフォーラムにおける質疑応答、課題提出を行う。</p> <p>受講者は、毎回の授業前にmoodle上の資料を熟読しておくことを求められる。授業中は資料に関する質疑応答や、映像資料の視聴・議論を行う。初回授業では、授業全体のテーマに関わるドキュメンタリーを視聴する予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手話が言語であるということの意味 2. 聞こえないということの意味 3. 「障害」とは何か：「障害」の個人モデル、社会モデル、新しい障害学 	

4. 障害学生と情報保障：合理的配慮について
5. ろう教育をめぐる問題
6. 医療をめぐる問題
7. 最終筆記試験
❖成績評価Grading System
平常点（授業中の議論への参加状況、moodle上の資料の閲覧状況、授業アンケートへの回答、数回課す予定の小さな課題による、30%）と最終試験（70%）によって評価する。ただし、出席回数が全授業数の3分の2に満たない受講者は不合格とする。詳細は初回授業で説明する。
❖テキストTextbooks
使用せず
❖参考書Reading List
手話の世界を訪ねよう / 亀井伸孝：岩波書店，2009，ISBN:9784005006304 ろう文化 / 現代思想編集部編：青土社，2000，ISBN:479175803X たったひとりのクレオール：聴覚障害児教育における言語論と障害認識 / 上農正剛：ポット出版，2003，ISBN:4939015556 聾教育の脱構築 / 金澤貴之編：明石書店，2001，ISBN:4750314560 手話でいこう：ろう者の言い分聴者のホンネ / 秋山なみ，亀井伸孝：ミネルヴァ書房，2004，ISBN:4623042545 手話の社会学：教育現場への手話導入における当事者性をめぐって / 金澤貴之：生活書院，2013，ISBN:9784865000122 上記文献以外に http://www.ne.jp/asahi/tuti/tuti/jugyo/2019_1/shuwa2019/bibliography.html に掲載するリストから適宜選んで紹介する。
❖準備学習Homework
積極的かつ主体的な準備学習（予習・復習）が求められる。 この授業では、毎回議論する内容について事前に電子媒体で資料を掲載するので、それを読み込んで、授業中に行う議論の準備をしておく必要がある。授業後はmoodle上でアンケートを行うが、これには必ず回答すること。さらに、毎回の授業の後、補足情報をmoodleに掲載することもある。最低限これらを読むことが十分な理解のためには必要である。これによって、授業内容を確認するだけでなく、授業で扱えなかった内容も読むことができる。また、講義資料中のリンク先をたどることによって、さらなる関連情報にも目を通して、理解を広げることが可能になる。また、参照文献リストは北大附属図書館の所蔵情報にリンクされているので、関心を持った文献を手にとってみることを勧める。 また、moodle上のフォーラムで授業時間外に質問することもできるので、積極的に活用してほしい。
❖オフィスアワーOffice Hour
❖連絡先（E-mail）E-mail
❖質問・相談への対応方法Contact Information
❖履修上の注意Notes
❖備考Other Information

※「対象学年」と「単位数」は、科目提供大学における数字であり、受講大学に応じて異なるので、所属大学で確認してください。

※「履修可能人数」は、科目提供大学以外の人数であり、遠隔と対面それぞれの受講形態で履修できる人数を示しています。(例.5(遠隔), 5(対面):遠隔授業で5名, 対面授業で5名まで履修可能。)

※北海道大学の対面授業は、教室の収容人数によって履修できない場合があります。